

2023年度第48回 全国伝統的工芸品公募展

JAPAN'S TRADITIONAL CRAFT
COMPETITION 2023

報告書

Exhibition Report



主催：一般財団法人 伝統的工芸品産業振興協会

後援：経済産業省・中小企業庁・日本商工会議所・全国商工会連合会・全国中小企業団体中央会

開催概要

名称	2023年度第48回全国伝統的工芸品公募展 JAPAN'S TRADITIONAL CRAFT COMPETITION 2023	
開催主旨	長い間受け継がれた確かな伝統的技術・技法に、現代生活の様式に合致し、新しいアイデアや表現を取り入れた市場性のある伝統的工芸品を公募し、魅力あふれる製品の開発を行う目的で実施。現代生活で使われるための需要を喚起し、国内だけではなく世界のマーケットにも通じる製品での市場開拓を狙う。	
応募期間	2023年10月1日(日)～10月31日(火)	
審査会	2023年11月29日(水) 国立新美術館	
審査結果発表	2023年11月30日(木)	
応募総数	142工芸品、235点、応募者203名	
審査結果	入賞14点、入選97点	

審査委員(敬称略/五十音順)

内田 篤呉	MOA美術館・箱根美術館館長
宇野 万貴子	株式会社高島屋 MD本部 呉服部 日本橋店呉服部長
不動 美里	姫路市立美術館 館長
黒川 廣子	東京藝術大学 大学美術館 館長・教授
十四代 今泉 今右衛門	陶芸家 公益社団法人日本工芸会副理事長 重要無形文化財「色絵磁器」保持者
田中 敦子	工芸ライター
棚町 敦子	「美しいキモノ」エディトリアル スーパーバイザー
塚本 裕之	経済産業省 製造産業局 伝統的工芸品産業室 室長
戸田 敏夫	日本伝統工芸士会 会長
日野 明子	クラフトバイヤー
増村 紀一郎	漆芸家 東京藝術大学名誉教授 重要無形文化財「髹漆」保持者
御手洗 照子	有限会社T-POT 代表取締役 株式会社t. gallery 代表取締役
原田 元	一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会 代表理事

内閣総理大臣賞

工芸品名（都道府県）	琉球びんがた（沖縄県）
作品名	琉球びんがた振り袖 「雲に椿牡丹」
製作者	永吉剛大



【講評】

紅型という形式が決まっている中でグラフィック感覚が優れており、晴れやかな紅型、重すぎない色柄に加え、白の使い方が効いている。また、新味あるデザインを伝統的な色で表現し振袖らしく華やかであり、伝統的に技法を楽しく軽やかに表現している点が高く評価され、内閣総理大臣賞に相応しいとして選定された。

【経歴】

2013年	第65回 沖展 帯「 Rond 」浦添市長賞 受賞
2014年～2017年	第66回～第69回沖展 入選
2019年	第54回 西部伝統工芸展 全通帯「散歩道」入選 全国伝統的工芸公募展 琉球びんがた着物「雨だれ」入選 第42回沖縄県工芸公募展 小紋総柄着物「冬の日差し」入選
2020年	第72回 沖展 琉球びんがた着物「ヒストリー」奨励賞 第54回伝統工芸染織展 琉球びんがた振り袖「七宝に松竹梅」 第67回日本伝統工芸展 琉球びんがた着物「潮風 その2」入選 第43回沖縄県工芸公募展 「よそ行き 浴衣 涼風」 佳作
2021年	第68回日本伝統工芸 琉球びんがた着物「潮あそび」 入選
2022年	第73回 沖展 琉球びんがた振り袖「霞にしだれ桜」奨励賞 第44回沖縄県工芸公募展 琉球びんがた六通創作帯 「風に吹かれて」本仕立て 奨励賞
2023年	第74回沖展 琉球びんがた着物「熱泳 -No Border-」浦添市長賞

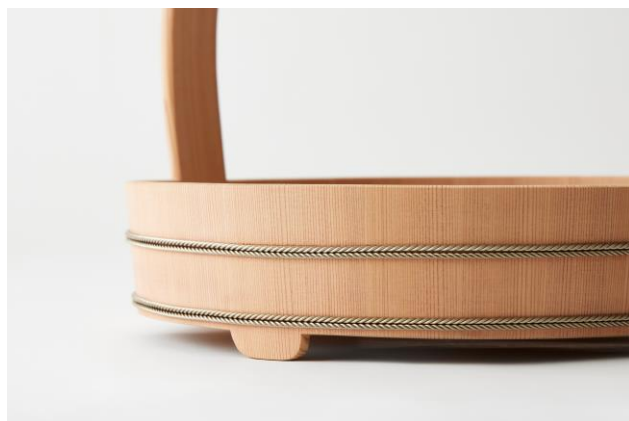


【受賞者の声】

この度は、内閣総理大臣賞を賜りまして誠にありがとうございます。身に余る賞を頂き驚きと喜びで胸がいっぱいです。これからも琉球びんがたの良さを探究することと共に、より多くの方々に着物を着ていただけるように励んでいきます。

経済産業大臣賞

工芸品名（都道府県）	京指物（京都府）
作品名	吉野杉曲手桶盛器
製作者	近藤太一



【講評】

全体の色調の渋さや取り合わせのセンス、デザインがまとまっており素晴らしい。のびのびとした作品でありながら、2本のタガの使い方が洗練されている。材料の使い方のほか、持ち手の接合部分は特に巧みで美しい。新しい技術が光り、桶で曲げわっぱに用いられる曲木の技術を転用したところが評価され、経済産業大臣賞に相応しいとして選定された。

【経歴】

- 1973年 大阪府生まれ
- 1998年 京都精華大学 大学院美術研究科 修了
- 2002年 木工芸家 中川清司(重要無形文化財保持者)に師事
職人として桶の技術を学ぶ
- 2009年 独立し工房「桶屋近藤」をひらく
- 2016年 京指物伝統工芸士の認定を受ける



【受賞者の声】

この度はこのような素晴らしい賞を賜わりまして、誠にありがとうございます。
京都の桶の可能性を模索しながら、新しい世代にも魅力を伝えられるようなモノ作りを続けていきたいと思います。

経済産業省製造産業局長賞

工芸品名（都道府県）	山中漆器（石川県）
作品名	栃造そば猪口
製作者	中嶋虎男



【講評】

伝統的な漆器らしさもありつつ、モダンな印象を与える。また、木目の美しさ、形、銀線ぞうがんの模様、ラップ型でさりげないデザインなど魅力的な点が多々挙げられる。そばちょこ以外にも用途が多々あり、和洋の両方のシーンで使う場面を想像しやすい。現代の伝統的工芸品に求められるものであることが評価され、経済産業省製造産業局長賞に選定された。

【経歴】

1939年 12月23日生まれ

1965年 9月に独立し工房なかじまを開設

2013年 第14回 伝統工芸木竹展朝日新聞社賞

2015年 第56回 石川の伝統工芸展石川県知事賞

2016年 第57回 石川の伝統工芸展NHK金沢放送局長賞

2017年 第16回 伝統工芸木竹展木竹参与賞

2021年 第18回 伝統工芸木竹展木竹参与賞



【受賞者の声】

この度「経済産業省製造産業局長賞」を頂くことができ嬉しいです。ありがとうございます。

中小企業庁長官賞

工芸品名（都道府県）	万字寄木木画文箱（神奈川県）
作品名	箱根寄木細工
製作者	本間昇



【講評】

模様の配置に加えて縁の取り方のバランスが優れ、デザインがまとまっており、作品としての仕上がりが極めて高い。従事年数の長い90代の職人によるものであるが、その密度感や秀逸な技術は歴史を背負った作品であると感じさせ、その時間の長さに思いを馳せてしまうほどである。大変精緻で完成度の高い点が評価され、中小企業庁長官賞に選定された。

【経歴】

1931年 10月8日生まれ

1948年 有限会社本間木工所に入社

2015年 日本伝統工芸展 新人賞

2017年 東日本伝統工芸展 東京都知事賞

2021年 2021年度 全国伝統的工芸品公募展 日本商工会議所会頭賞受賞

【受賞者の声】

箱根寄木細工の更なる技術の向上と価値感を高める為に緻密な寄木文様で製作しました。受賞は光栄です。

日本商工会議所会頭賞

工芸品名（都道府県）	南部鉄器（岩手県）
作品名	鉄瓶「うつろ舟」
製作者	小熊愉吉



【講評】

曲線が美しいフォルムや重厚感が良く、しとっとしたマット感が印象的。人気の高い南部鉄器のデザインを工夫しながらも、綺麗なフォルムにまとめている。手わざで磨かれた情緒ある美しさが評価され、選定された。

【経歴】

- 1986年 岩手県盛岡市に生まれる
- 2009年 岩手芸術祭工芸部門「奨励賞」
- 2010年 盛岡芸術祭工芸部門「市長賞」
- 2011年 岩手工芸美術展「盛久賞」
- 2012年 岩手工芸美術展「盛久賞」
- 2014年 岩手大学教育学部芸術文化課程 卒業
岩手県盛岡市「釜定」入社
岩手工芸美術協会会員



【受賞者の声】

この度は日本商工会議所会頭賞を賜りまして、ありがとうございます。
これからも精進して仕事と作品制作に励みたいと思います。

全国商工会連合会会長賞

工芸品名（都道府県）	京友禅（京都府）
作品名	ショルダー付 合切袋 「ブロック」
製作者	上仲昭浩



【講評】

京友禅の技法が現代的デザインに落とし込まれており、品よく箔を施している点がおしゃれである。男女問わない小洒落たデザインで、審査員自身も使用してみたいという声も上がった。価格も手ごろであるため様々な場で活躍できると想像できるという点が評価され、選定された。

【経歴】

- 1969年 京都生まれ
- 1988年 元橋宏太郎に師事
- 1995年 家業である呉服金箔加工 二鶴工芸に入社
- 1998年 京都府工芸技術コンクール 帯 「裂取金唐革」 入選
新・京ものコンペティション「テーブルセンター」 入選
- 1999年 京都府工芸技術コンクール 帯 「松皮取金唐革」 入選
- 2000年 京扇子図案コンクール 銅賞 受賞
- 2001年 京扇子図案コンクール 銀賞 受賞
- 2002年 扇子うちわFADC 入選
- 2003年 京展 着物「満天」 入選
- 2004年 京展 着物「月影」 入選
- 2006年 京都デザイン優品 「デニムショルダーバッグ」 入選
- 2008年 京の若手職人 「京もの認定工芸士」 認定
- 2015年 第40回 全国伝統的工芸品公募展 「デニム製角帯七宝」 入選
- 2016年 京都府クラフトコンペティション 審査員奨励賞受賞 「竹節酒器セット」
(京焼・清水焼 柴田窯 柴田恭久氏とのコラボ)
- 2018年 第43回 全国伝統的工芸品公募展 「本革製道中財布姫路黒棧革竹節麻の葉銀」 入選
- 2019年 第5回 藝文京展 「寂軽銀道中財布」 入選
- 2022年 第47回 全国伝統的工芸品公募展 「巾着ショルダー青貝箔」 全国商工会連合会会長賞 受賞
OMOTENASHI SELECTION 2022 受賞 「金彩ガラス皿 赤富士」

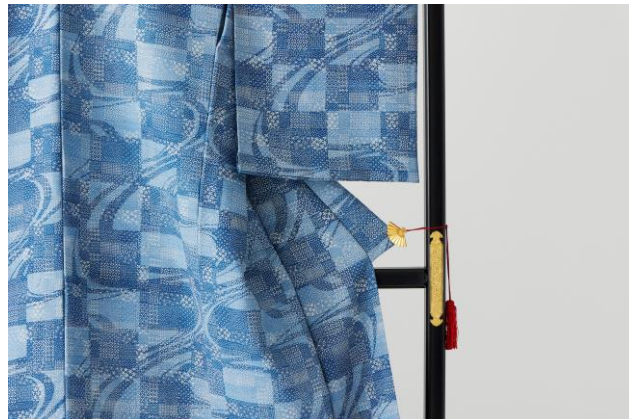


【受賞者の声】

この度は全国商工会連合会会長賞を賜りまして誠にありがとうございます。思わぬ受賞でしたが大変光栄でございます。受賞を励みにこれからもご使用いただくお客様と思い出や感動を共有していくようなものを作っていきたいと思っております。

全国中小企業団体中央会会長賞

工芸品名（都道府県）	松本本藍型染（長野県）
作品名	希望
製作者	浜完治



【講評】

紬をつくるにあたり、糯粉（もちこ）を使用した真糊作り、本藍建てによる藍型染など、天然の素材にこだわり高い技術で製作された柔和さが感じられる作品。加えて、マテリアル及び技術に比してリーズナブルな価格となっていることもとても良い。一目見て作者のやさしさが伝わる作品である点が評価され、選定された。

【経歴】

- 1949年 松本市に生まれる
- 1967年 家業の藍染 浜染工房で修業を始める
- 1994年 高崎市染色工芸館企画展 藍染3代展
- 1999年 日本現代工芸美術長野会展 入選
- 2009年 長野県工芸美術展 大賞
- 2010年 長野県工芸展 知事賞
- 2011年 長野県美術展 入選
- 2012年 松本市芸術文化祭 松本市長賞
- 2022年 松本市美術館 藍と紬展
須坂クラシック美術館企画展
全国伝統的工芸品公募展 入選



【受賞者の声】

この度は素晴らしい賞を賜りまして誠に有難うございます。藍染一筋でやって参りましたが、これ程嬉しい事はありません。高齢ではありますがこれを励みに一層の努力をして行きたいと思っております。

一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会賞

工芸品名（都道府県）	近江上布（滋賀県）
作品名	ALATA
プロデューサー	西村善樹
製作者	西村善樹、川口のり子、伊谷寿康



【講評】

3名の方が共同でこれだけの大作を作り上げたという作品作りの姿勢に熱意を感じる。また、作者の従事年数は長いが、まだ年齢は若いため、これからも産業を続けてほしいと期待を持たせる作品である。本作品は時間のかかる作業も多いが大変丁寧に作られている点が評価され、選定された。

【経歴】 西村善樹

1966年 滋賀県彦根市に生まれる

2003年 川口織物入社

2015年 伝統工芸士（染色部門）認定

2023年 全国伝統的工芸品公募展 出品（近江上布 着尺）

【受賞者の声】

この度は荣誉ある賞を賜りまして、誠にありがとうございます。
この受賞を近江上布の産地へのエールとして受け止め、その産地の一員として自分に果たせる役割を全うすべく、身の引き締まる思いです。
これからの近江上布に袖を通して頂くことで、日常の中に小さな喜びやゆとりが生まれるような、そんな作品をお届け出来ますよう精進を重ねて行きたいと思っております。
ありがとうございます。

日本伝統工芸士会会長賞

工芸品名（都道府県）	東京銀器（東京都）
作品名	純銀製市松ゴザ目冷器
製作者	上川宗達



【講評】

急須の模様も細かく、質と価格、デザイン全体的なバランス感が素晴らしい。銀が高騰しているなかでの価格帯は良心的である。外側の模様のデザインやテーマだけではなく、内側も美しく、蓋もスムーズに開けやすいなど使い手のことを考えられている。技術力の高さやこだわりが高く評価され、選定された。

【経歴】

- 1980年 東京銀器の祖平田家から11代続く銀師の家に生まれる
台東区出身
- 1998年 父2代目上川宗照に師事。鍛金技法を学び始める
- 2002年 重要無形文化財保持者（人間国宝）である奥山峰石氏に師事
- 2003年 第7回全日本金銀創作展入賞
- 2007年 奥山峰石研修生発表展
- 2011年 経済産業省大臣指定伝統工芸品である東京銀器の伝統工芸士として最年少で認定
- 2013年 第11回全日本金銀創作展入賞
- 2017年 奥山峰石研修生発表展
- 2018年 トヨタ自動車日本のものづくりサポート事業
「LEXUS NEWS TAKUMI PROJECT」2018年東京代表選出
- 2021年 「ART MARKET TENNOZ2021 - TAKUMI BORDERLESS」に出展
宗達アートクラフト株式会社設立
- 2023年 東京手仕事プロジェクト「GINAME」認定
第47回全国伝統的工芸品公募展「日本伝統工芸士会会長賞」受賞



【受賞者の声】

この度「日本伝統工芸士会会長賞」と大変光栄な賞をいただきとても嬉しいです。今まで応援、支えてくださった方全ての方に感謝申し上げます。

私がものづくりをする上で、心に大切にしている言葉があります。それは、「手間を惜しまず心を尽くす」です。日本の伝統、文化、芸能、工芸の素晴らしさは、1つ1つの工程に手間とこだわりを持ち、一瞬の為に果てしない時間や想いを作品に入れ表現する事。勤勉な性格を持つ日本人だからこそ成し得る事ができる日本独自の「感性」は世界で認められております。

この作品を見た方が、なにかを感じていただけたのなら嬉しいです。

若手奨励賞

工芸品名（都道府県）	紅型（沖縄県）
作品名	紅型 半染地帯「くるみ割人形」
製作者	與那覇佳栄子



【講評】

自身のあったら良いなという感性や、ご息女のことを想い製作された温かみのある作品である。また、デザインの感性が現代的であり、今の講演や外出に着用しても全く違和感がない。若手ながら新たなデザインを提案していることが評価され、選定された。

【経歴】

- 1979年 広島県に生まれる
- 2021年 沖縄県工芸振興センター紅型研修 修了
- 2022年 おきなわ工芸の杜にて屋号atelier 47として
工房開設
- 2023年 第77回 新匠工芸会展にて奨励賞受賞



【受賞者の声】

この度は、若手奨励賞を賜り、大変光栄に存じます。
さらに技術を磨きつつ、使い手も作り手もワクワクするような、遊び心のあるデザインで制作していきたいと思えます。

若手奨励賞

工芸品名（都道府県）	京焼・清水焼（京都府）
作品名	紫光白菊茶器揃
製作者	上坂妙(雅号 善妙)



【講評】

緻密な紋様と色使いが、現代にあったおしゃれな表現に落とし込まれており、デザインの良さが光る。京焼・清水焼の繊細さを感じながら、カジュアルな場面はもちろん、お客様をおもてなしする場面など幅広い場面で利用できる点が評価され、選定された。

【経歴】

- 2014年 山岡善昇氏師事
- 2016年 京都府立陶工技術専門高等学校卒
山岡善昇窯にて修行
- 2019年 京都文化博物館 アートフリーマーケット 推薦作家出展
独立に伴い「善妙」を銘々
- 2021年 京都 好文舎にて個展
第43回京焼清水焼展 京都銀行頭取賞 受賞
- 2022年 京都陶磁器会館にて個展～澪標～
第44回京焼・清水焼展 京都陶磁器協会理事長賞 受賞
ご依頼を受け皇室献上品を作成
日本橋三越 洛趣展 出展
第47回全国伝統的工芸品公募展 中小企業庁長官賞 受賞
- 2023年 京都 好文舎にて個展
京都 大聖寺様にて皇室献上
京都大丸にて個展
第45回京焼・清水焼展 宇治市長賞受賞
第48回全国伝統的工芸品公募展 若手奨励賞 受賞



イベント、個展、展覧会など多数出展
現在、京都市にて作陶中

【受賞者の声】

この度は、このような賞をいただきありがとうございます。
私が頑張っているのは、応援していただいている方々、家族、友達、皆様のお陰なので感謝しております。
これからも精進してまいりますので、よろしく願い致します。

若手奨励賞

工芸品名（都道府県）	江戸硝子（東京都）
作品名	短冊
製作者	渡辺歩志



【講評】

江戸切子の技と紋様を器以外に落とし込んでいるほか、現代の生活で生かせる作品となっている点が魅力的。若い方が伝統工芸を大切に楽しむ、という心を育てるのに有効な作品であることが評価され、選定された。

【経歴】

1994年 静岡県に生まれる

2016年 東海大学教養学部芸術学科美術学課程 卒業

田島硝子株式会社 入社

【受賞者の声】

この度は素敵な賞を頂きまして、誠にありがとうございます。
これからも日々制作に励み、ガラスの魅力を伝えていけるようなものづくりをしていきたいと思
います。

バイヤー賞

工芸品名（都道府県）	京焼・清水焼（京都府）
作品名	白梅酒器揃え
製作者	貴古窯



【講評】

ハレの使用だけではなく、日常を彩り、気分を上げてくれる作品。細部も綺麗に作りこまれており、古典的だがデザイン性があり逆に今らしく感じることができる。お祝いやギフトなど多用途に活用できることや、価格も適当な点が評価され、選定された。

【経歴】

- 1964年 三代貴古（善和）の長男として生まれる
- 1987年 京都市立芸術大学 陶磁器科 卒業
宇治炭山にて独立開業
- 1988年 六世小川流煎茶道家元 小川後楽先生よりご指導を賜る

以後 家元の指導にて小川流のお道具にたずさわり現在にいたる

- 2002年 京都高島屋 美術工芸サロン 個展
- 2007年 京都 東急ホテル 個展
- 2009年 東京日本橋高島屋 迎春のうつわ展
- 2013年 名古屋 京都 マエストロ貴古作陶展
- 2019年 白砂村荘 橋本関雪記念館 今橋貴古作陶展



【受賞者の声】

このように評価をしていただき誠に嬉しかったです。

バイヤー賞

工芸品名（都道府県）	熊野筆（広島県）
作品名	熊野筆 柿渋染め5本セット
製作者	株式会社晃祐堂



【講評】

柿渋の色味と全体のトーンが一致しており、手にとって使いたくなる作品である。素材だけではなく、筆先の色味、柄のフォルムまでこだわりが感じられ、使う人を楽しくさせるという点が高く評価され、選定された。

【経歴】 植松藤盛（株式会社晃祐堂）

- 1953年 広島県熊野町に生まれる
- 1978年 筆作りの修行を始めると同時に晃祐堂を創業
- 1981年 天平筆の製法を文献に基づき修得
- 2015年 晃祐堂化粧筆工房 新社屋完成
- 2018年 地域未来牽引企業に選定される



【受賞者の声】

書筆の技術を活かして作った柿渋染めの化粧筆がこのように評価されて大変嬉しく思います。この受賞を通して、筆業界に更に貢献していきたいと考えております。

入選作品一覧(97作品)

工芸品名	出品者名	作品名	都道府県
結城紬	北村初雄	結城紬蚊紼	茨城県
羽越しな布	大滝 順子	しな樹皮染め もじり窓八寸名古屋帯 帯地	新潟県
信州紬	小岩井良馬	イロトリドリの世界	長野県
本場大島紬	有限会社興紬商店	扇面	鹿児島県
本場大島紬	まさき織物株式会社	吹上紬 漣	鹿児島県
本場大島紬	株式会社夢おりの郷	伝統美	鹿児島県
赤穂緞通	見並なおこ	藤蔓赤穂緞通「夜凧」	兵庫県
鍋島緞通	吉島ひろ子	鍋島緞通 Chinoiserie 珠	佐賀県
東京染小紋	根橋亮一	染帯 万華鏡	東京
東京染小紋	根橋亮一	亀甲 ～ハニカム～	東京
有松・鳴海絞	山腰ルミ	三浦絞り「八月の和音」	愛知県
京鹿の子絞	松岡輝一	Shibori-Aitpanel「深光 深陰」	京都府
京友禅	上仲昭浩	ショルダー付 合切袋「ブロック」	京都府
京友禅	石塚文雄	水紋に鯉	京都府
琉球びんがた	永吉剛大	琉球びんがた振り袖「雲に椿牡丹」	沖縄県
琉球びんがた	具志七美	雨の幻想	沖縄県
紅型	與那覇佳栄子	紅型 半染地帯「くるみ割人形」	沖縄県
十日町友禅	株式会社青柳	訪問着「琳派割付模様」	新潟県
江戸型小紋	三橋京子	手挿し型染め訪問着「洋酒の瓶柄」	東京都
松本本藍型染	浜完治	希望	長野県
こぎん刺し	角館徳子	こぎん刺しワンピース	青森県
笠間焼	小林哲生	角切組鉢(大)(小)	茨城県
三州鬼瓦工芸品	神谷琢	gray dish (7寸丸平皿)	愛知県
九谷焼	前田昇吾	淡雪釉 振り小鉢揃	石川県
九谷焼	宮本雅夫	緑彩俎板皿「笹音」	石川県
京焼・清水焼	上坂妙(善妙)	紫光白菊茶器揃	京都府
京焼・清水焼	貴古窯	白梅酒器揃え	京都府
萩焼	小川浩延	萩海乱鬼窯変プレート 五客揃	山口県
波佐見焼	山口台丹	染付華文鉢	長崎県
高取焼	高取春慶	巻向	福岡県
津軽塗	白川明美	彫漆盛皿	青森県
鎌倉彫	青山常昭	三段弁当箱(木を大切に使う新たな取り組み)	神奈川県
鎌倉彫	浮彫社	クローバー二段重箱	神奈川県
鎌倉彫	志知勢次	酒器 地・月・日	神奈川県
村上木彫堆朱	鈴木伸也	菊地紋 彩りカップ	新潟県

入選作品一覧(97作品)

工芸品名	出品者名	作品名	都道府県
木曾漆器	西野孝章	纏綯塗り だるまカップ	長野県
山中漆器	針谷崇之	ステンドグラス テーブルランプ 陰翳礼讃 (いんえいらいさん) -蝶々-	石川県
山中漆器	株式会社想贈	櫛のおーるいん椀 II	石川県
八雲塗	漆工房大燈	八雲びいどろ ガラス漆器	島根県
広島漆芸	株式会社高山清	伝／紅葉	広島県
岩谷堂箆笥	及川洋	六瓢箱	岩手県
仙台箆笥	増野繁治	踏み引き出し	宮城県
大館曲げわっぱ	柴田昌正	源平 GENPEI container(box + tray)	秋田県
春日部桐箆笥	小野留太郎	桐四方留め六角正目合わせ帯締め箆笥	埼玉県
箱根寄木細工	本間昇	万字寄木木画文箱	神奈川県
箱根寄木細工	(株) 金指ウッドクラフト	寄木位牌	神奈川県
山中漆器	中嶋虎男	栃造そば猪口	石川県
京指物	田原寛季	HegiTray	京都府
京指物	近藤太一	吉野杉曲手桶盛器	京都府
豊岡杞柳細工	岡井見恩子	柳アタッシュケース	兵庫県
指物	クロサキ工芸	スマートフォンスピーカーS	栃木県
将棋盤	熊須健一	榧製将棋盤	宮崎県
茶道指物	當眞嗣人	屋久杉三重棚	東京都
江戸和竿	増形智志	真鮎竿	東京都
紀州へら竿	紀州へら竿 和人	総飾り 八尺	和歌山県
南部鉄器	小熊愉吉	鉄瓶「うつろ舟」	岩手県
南部鉄器	大村敏宏	肩衝菱格子あられ鉄瓶	岩手県
南部鉄器	山田真	座布団形鉄瓶 ぽろり	岩手県
南部鉄器	畠山拓巳	ウッドストーブケットル	岩手県
東京銀器	亘理立	純銀市松紋茶器揃	東京都
東京銀器	上川宗達	純銀製市松ゴザ目冷器	東京都
高岡銅器	株式会社山口久乗	音心具 天空の華セット	富山県
高岡銅器	株式会社竹中銅器	Bronze Mask Holder Bird/Cactus/Dolphin	富山県
高岡銅器	株式会社秀正堂	ブロンズつけペン	富山県
越前打刃物	有限会社 加茂藤刃物	ステーキナイフフォークセット	福井県
堺打刃物	山塚光雄	墨模様	大阪府
堺打刃物	笠原重廣	美 Sharp !!	大阪府堺市
金沢仏壇	株式会社池田大仏堂	祈りの小箱キューブ 紋紗塗り	石川県
阿波和紙	阿波手漉和紙商工業協同組合	阿波和紙による浮世絵 「阿波 鳴門の風波」(安藤広重)の復刻	徳島県

入選作品一覧(97作品)

工芸品名	出品者名	作品名	都道府県
播州そろばん	播州算盤工芸品協同組合	賽銭箱型そろばん貯金箱	兵庫県
播州そろばん	高山辰則	彩華	兵庫県
熊野筆	株式会社晃祐堂	熊野筆 柿渋染め5本セット	広島県
川尻筆	畑幸壯	赤ちゃん筆 いぶき Ibuki	広島県
甲州水晶貴石細工	大寄智彦	甲州水晶貴石ペン	山梨県
宮城伝統こけし	株式会社こしき (桜井こけし)	KOKESHI	宮城県
江戸木目込人形	藤井望	豆雛 (こちんまり)	東京都
京人形	京人形み彌け	サムライバッグ「MITSUNARI」	京都府
前橋びな	人形の島久	唐織 桜枝紋様に梅重	群馬県
江戸切子	矢野瑞季	mine	東京都
江戸硝子	渡辺歩志	短冊	東京都
越中福岡の菅笠	越中福岡の菅笠振興会	色染めスゲ模様角笠	富山県
高千穂郷わら細工	甲斐陽一郎	祝亀	宮崎県
編み組細工	八幡義友	ふたつのワンマイルバッグ (山ぶどう)	福島県
山葡萄編み組み細工	一朶	山葡萄籠「マル」	群馬県
押絵羽子板	鈴木健太郎	押絵羽子板「青龍」	千葉県
美濃切子	株式会社丸モ高木陶器	美濃切子シリーズ	岐阜県
花結び	吉田郁与	花結びかご	岐阜県
京都切子	石原美絵	酒呑器-酔霞-	京都府
しめ飾り	福島久美子	弥栄	兵庫県
本印傳	南浦太市郎	吉原つなぎ柄燻長サイフ	奈良県
琉球アダン編み	山田洋子	琉球パナマ帽	沖縄県
庄川挽物木地	横山 勝次	筋目挽き Bonbonniere — 盛り筋、櫛目	富山県
十日町明石ちぢみ	吉澤武彦	夏の情景	新潟県
近江上布	西村善樹	ALATA	滋賀県
三州鬼瓦工芸品	株式会社鬼栄	保温、冷却効果付き飾り瓦マット (ねこうさ)	愛知県
京友禅/絹織物紹紗	中條弘之	水面	京都府 新潟県
奄美の芭蕉布/京扇子	長谷川千代子	沖永良部芭蕉布 京扇子仕立て	鹿児島県 京都府

審査講評

審査委員長

漆芸家 東京藝術大学名誉教授 重要無形文化財「髹漆」保持者

増村 紀一郎



今回の公募展では、コロナ禍や先の見えないロシアによるウクライナ侵攻と共に少子化、高齢化、後継者不足などの社会背景の中での作業を反映したであろう作品が集合しました。

展示会場である六本木の国立新美術館は広々とした空間で、照明も細部まで行き届いており展示台の出品作品はどれも優れて見えます。

応募総数は235点、203人から作品が寄せられました。厳正な審査の結果、入選97点の中から入賞作品14点が決定しました。

「内閣総理大臣賞」の琉球びんがた（沖縄県）・永吉剛大さんによる「琉球びんがた振袖『雲に椿牡丹』」は、黄色地に花文を配する典型的な紅型ですが、青海波が描かれたことでスケール感が広がった優品です。

「経済産業大臣賞」の京指物（京都府）・近藤太一さんによる「吉野杉曲手桶盛器」は、あまり目にしたことがない斬新な発想のデザインと技術で作られた優品です。

「経済産業省製造産業局長賞」の山中漆器（石川県）・中嶋虎男さんによる「栃造そば猪口」は、トチの木を轆轤仕上げする際に外側の裾に銀の撚り線を象嵌し、そのあとに拭き漆仕上げしたお洒落な作品です。

「中小企業庁長官賞」の箱根寄木細工（神奈川県）・本間昇さんによる「万字寄木木画文箱」は、御年92歳で箱根寄木細工一筋の驚くべき方の作品です。

「日本商工会議所会頭賞」の南部鉄器（岩手県）・小熊愉吉さんによる「鉄瓶『うつろ舟』」は、取っ手と本体が有機的なフォルムでバランス良く整っており、身の本体の裾に引かれた無機的なラインが効果的な作品です。

「全国商工会連合会会長賞」の京友禅（京都府）・上仲昭浩さんは、昨年に続いての受賞です。今回の「ショルダー付 合切袋『ブロック』」は、コットン地に肩ベルトを付けたショルダーバッグで、銀箔に焼き色を施した色箔の市松文様が上品な佇まいを見せている作品です。

「全国中小企業団体中央会会長賞」の松本本藍型染（長野県）・浜完治さんによる「希望」は、松本本藍型染の作品で、紬地に型染の文様がのぼる、希望を感じさせる作品です。

「一般財団法人伝統的工芸産業振興協会賞」の「ALATA」は、近江上布（滋賀県）・西村善樹さん、川口のり子さん、伊谷寿康さんによる3者共作です。ベテラン3人の技術と経験をもとに、近江上布のラミー地に、経糸、緯糸、道具による微妙なズレのある緋文様と風合いが素晴らしい作品です。

「日本伝統工芸士会会長賞」の東京銀器（東京都）・上川宗達さんによる「純銀製市松ゴザ目冷器」は、東京銀器の冷えた飲み物用のお銚子で市松文様を小判のゴザ目で表す繊細な技が際立った作品です。

「若手奨励賞」の紅型（沖縄県）・與那覇佳栄子さんによる「紅型 半染地帯『くるみ割人形』」は、デザインに用いた文様を寒い北ヨーロッパの玩具から引用、そして亜熱帯に近い沖縄の紅型技法で表現した、驚きとユーモアのある作品です。

同じく「若手奨励賞」の京焼・清水焼（京都府）・上坂 妙（善妙）さんは、昨年に続いての受賞になります。「紫光白菊茶器揃」は、淡い紫色と白菊の色彩構成が素晴らしい作品です。

同じく「若手奨励賞」の江戸硝子（東京都）・渡辺歩志さんによる「短冊」は、青と緑の外被せガラスに江戸切子伝統の菊繋ぎ文様を施したピアスで、耳元を美しく飾る作品です。

「バイヤー賞」の京焼・清水焼（京都府）・今橋剛和さんによる「白梅酒器揃え」は、角型のお銚子に白梅を描き、白梅型の盃を組み合わせた京焼・清水焼らしい繊細な感覚の組ものです。

同じく「バイヤー賞」の熊野筆（広島県）・植松藤盛さんによる「熊野筆 柿渋染め5本セット」は、山羊毛の穂先を柿渋で染色し、持ち手には堅木のメープル材を使った、手に馴染む触感を生む、見た目と使用感を両立した優れた作品です。

以上、受賞作品の紹介を述べましたが、審査委員の選んだ作品を通して受賞者に今後の飛躍を応援する役割を果たしたと確信しております。

今回を含めてこの公募展出品者のメリットとして、会場に足を運んで他者との比較をした上で自作の立ち位置を判断・客観視できることが挙げられます。このことは明日への目標となるでしょう。

最後になりますが、本年1月1日に能登半島地震が発生し、輪島塗が大変な被害に遭い復興に多大な時間と労力・資金が必要です。一刻も早い回復が望まれます。

この件により1月18日に予定されていた授賞式は中止になりましたが、受賞された方々を祝い、激励する機会がなかったことは残念でした。

国立美術館での展示会

会期	2023年12月1日(金)～11日(月) 12/5(火)休館 10:00～18:00 最終日13:00まで
会場	国立新美術館 1階展示室1D(東京都港区)
来場人数	8,076名

昨年度に引き続き国立新美術館での展示会を実施、応募作品235点を展示しました。8,076名の方々にご来場頂き、公募展をご存じない皆様にも広く工芸品の良さを知って頂く好機となりました。



優秀作品展

会期	2023年12月22日(水)～2024年1月11日(木) 12/29(金)～1/3(水)休館 11:00～19:00 最終日18:00まで
会場	伝統工芸 青山スクエア(東京都港区)
販売総数	97点

入賞・入選した97点の作品展を行いました。



授賞式

2024年1月18日(木)に明治記念館にて授賞式を開催予定でしたが、令和6年能登半島地震にて工芸品産地も壊滅的な被害を受けたことなどを考慮し、止むなく開催を中止させていただくこととなりました。

ポスター・チラシ・DM

◆作品募集

2023年度
全国伝統的工芸品
公募展
作品募集

伝統に、新風を。

応募期間
2023年10月1日(日)~10月31日(火)必着

作品展示会
2023年10月1日(日)~10月31日(火)必着

国立新美術館(東京都港区六本木)にて12月上旬に開催
たくさんのご来客にご覧頂けます!

内閣総理大臣賞 副賞 30万円 経済産業大臣賞 副賞 20万円ほか
経産相、経産副相、中小企業庁、日本工芸大連盟、全国伝統工芸品協会、全国中小企業振興中央会
主催 一般財団法人伝統的工芸品振興財団
お問い合わせ先 企画課 〒107-0052 東京都港区赤坂6-1-22 TEL: 03-6432-9335

2023年度
全国伝統的工芸品
公募展
作品募集

長い歴史が継がれた伝統的技術・技法に、現代生活の中で使われるための新しいアイデアや表現を取り入れ、市場性のある伝統的工芸品を創造し、国内外で受け継がれるアートにもなる優れた作品を募集し、個性豊かな作品の発表の場とさせていただきます。

本年度も多くの方から作品をご応募いただける「国産新美術展」での展示会を実施致します。生活の中で実際に使用または贈答に最適な作品を、目に留めたい等々、暮らしが豊かになるような作品の出品を希望しております。

応募資格 経済産業大臣指定伝統的工芸品及びこれに準じる伝統工芸品を業として製作する個人、法人・団体(制作は専ら職員の「フリーランス」を含む)、企業、産地等、団体等。(外国人アーティスト・個人参加の募集、予定はございません。)

期待する作品 思いやりの心が感じられる、個性豊かな作品を募集しております。参加賞品に個人入札は、変更されるかもしれないアートやデジタルアートも募集。審査員の手札に即入札して、いつまでも大切に、使い続けることのできる、実用工芸品としての実用性や個性を併せ持つものが、最も高く評価される作品。

賞 内閣総理大臣賞 30万円 経済産業大臣賞 20万円 経済産業省長官賞 10万円 ほか

展示会 「国産新美術展(新美術展(ホト))」にて展示会を実施し、多くの来場者から作品をご覧いただける機会があります。
※本人、入場券が別途必要となります。

応募の手順
1 応募票を提出する 2 応募手続料の振り込み 3 作品の納入

2023年 10月1日(日)~10月31日(火)必着

お問い合わせ先 一般財団法人伝統的工芸品振興財団 企画課 公募展事務局 TEL: 03-6432-9335 / mail: koubohen@kougeihin.jp

ポスター・チラシ (表)

チラシ (裏)

◆展示会

2023年度第48回
全国伝統的工芸品
公募展

伝統に、新風を。

2023年12月1日(金)~12月11日(月)
10:00~18:00 観覧料無料

会場
国立新美術館1階展示室1D
(東京都港区六本木7-22-2)
東京都庁12F市民開放ホール
青山山頂方面南出口(美術館前線)
※観覧場はございます。

優秀作品展
日時 2023年12月22日(金)~1月11日(木) 11:00~19:00
会場 伝統工芸青山スクエア(東京都港区赤坂6-1-22)
※観覧料は別途必要です。

お問い合わせ先 企画課 〒107-0052 東京都港区赤坂6-1-22 TEL: 03-6432-9335

2023年度第48回
全国伝統的工芸品
公募展

伝統に、新風を。

2023年12月1日(金)~12月11日(月)
10:00~18:00 観覧料無料

会場
国立新美術館1階展示室1D
(東京都港区六本木7-22-2)
東京都庁12F市民開放ホール
青山山頂方面南出口(美術館前線)
※観覧場はございます。

優秀作品展
日時 2023年12月22日(金)~1月11日(木) 11:00~19:00
会場 伝統工芸青山スクエア(東京都港区赤坂6-1-22)
※観覧料は別途必要です。

お問い合わせ先 企画課 〒107-0052 東京都港区赤坂6-1-22 TEL: 03-6432-9335

JAPAN'S TRADITIONAL CRAFT COMPETITION 2023

2023年度第48回
全国伝統的工芸品
公募展

使い手の日々が楽しくなる、
"明日から一生使える" 伝統工芸品が集結!

経済産業大臣指定「伝統的工芸品」をはじめ、日本に伝わるさまざまな伝統工芸品が作品として、第48回を迎える「全国伝統的工芸品公募展」では、その確かな伝統技法に、現代のライフスタイルに寄り添う新しいアイデアや表現を取り入れた芸術的工芸品を募集し、展示会を行います。個性豊かな作品の発表の場とさせていただきます。日本が誇る伝統とものづくりの可能性をじっくり堪能できる展覧会、みなさんの暮らしに寄り添った工芸品との出会いをお楽しみください。

会期中アンケートにご協力頂いた方には、さきやかな記念品をプレゼントいたします。
※内閣総理大臣賞 副賞 30万円 経済産業大臣賞 副賞 20万円 経済産業省長官賞 副賞 10万円 ほか

会場アクセス
2023年度第48回
全国伝統的工芸品
公募展
国立新美術館1階展示室1D
(東京都港区六本木7-22-2)
東京都庁12F市民開放ホール
青山山頂方面南出口(美術館前線)
https://www.nact.jp

優秀作品展
伝統工芸青山スクエア(東京都港区赤坂6-1-22)
〒107-0052 東京都港区赤坂6-1-22
TEL: 03-6432-9335 FAX: 03-6785-1003
https://kougeihin.jp/

ポスター

チラシ (表)

チラシ (裏)

2023年度第48回
全国伝統的工芸品
公募展

伝統に、新風を。

2023年12月1日(金)~12月11日(月)
10:00~18:00 観覧料無料

会場
国立新美術館1階展示室1D
(東京都港区六本木7-22-2)
東京都庁12F市民開放ホール
青山山頂方面南出口(美術館前線)
※観覧場はございます。

優秀作品展
日時 2023年12月22日(金)~1月11日(木) 11:00~19:00
会場 伝統工芸青山スクエア(東京都港区赤坂6-1-22)
※観覧料は別途必要です。

お問い合わせ先 企画課 〒107-0052 東京都港区赤坂6-1-22 TEL: 03-6432-9335

2023年度第48回
全国伝統的工芸品
公募展

日本中から伝統工芸品が「六本木の美の殿堂」に集結!

高度な技術と100年以上の歴史を誇る職人の伝統的工芸品は、全国で30産業あります。これらの工芸品を中心とした工芸品の展示会です。一人でも多くの方にこの作品を見ていただきたく、最も優れた新美術展にて展示会を実施致します。

会期中アンケートにご協力頂いた方には、さきやかな記念品をプレゼントいたします。

お問い合わせ先 一般財団法人伝統的工芸品振興財団 企画課 (公募展事務局) 〒107-0052 東京都港区赤坂6-1-22 TEL: 03-6432-9335

JAPAN'S TRADITIONAL CRAFT COMPETITION 2023

Dec.1(Fri.) - Dec.11(Mon.)
10:00~18:00 観覧料無料

The National Art Center, Tokyo Gallery 1D
1-22-2 Roppongi Minato-Ari Tokyo 106-0058 JAPAN
Tokyo Metro Chiyoda Line, Nishi-Shinjuku Station (Exit 3) (No parking available).

Award Winner's Exhibition
Date Dec-22 (Fri.), 2023-Jan.11 (Thu.), 2024
11:00~19:00 (Closed on Dec.30)

Venue
Japan Traditional Crafts Aoyama Square
1-8-12 Aoyama, Minato-Ku, Tokyo 107-0052 JAPAN
2-min walk from Aoyama Station (exit 3) (No parking available).

Please visit Japan Traditional Crafts Aoyama Square and the National Art Center, Tokyo website for the latest information and measures to prevent the spreading of the COVID-19.

JAPAN'S TRADITIONAL CRAFT COMPETITION 2023

Traditional crafts from all over Japan gather in "the Hall of Arts in Roppongi!"

There are more than 300 designated traditional crafts nationwide, with advanced craftsmanship and history of over 100 years. "Japan's Traditional Craft Competition" gathers these crafts, and the craftsmen compete not only their skills and beauty, but originality to use in our daily lives. We will hold the exhibition at the National Art Center, Tokyo to show these masterpieces to a large audience. Please come and enjoy the exquisite beauty of the craft.

We look forward to welcoming you to this delightful event at the end of the Season of Art, Autumn!

Contact: The Association for the Promotion of Traditional Crafts Industries
8-1-22 Aoyama, Minato-ku, Tokyo 107-0052 JAPAN
TEL: 03-6432-9335 / FAX: 03-6785-1003 / mail: kougeihin.jp/koubohen/

DM (日本語)

DM (英語)

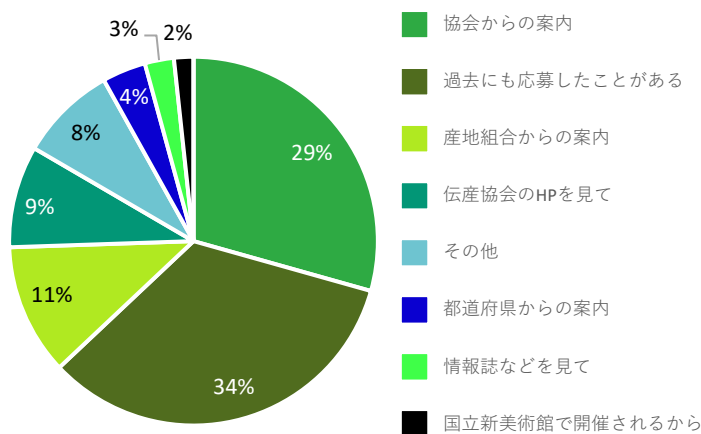
応募概況

業種	工芸品数				応募者数				点数			
	指定	県等指定	非指定	産地数計	指定	県等指定	非指定	産地数計	指定	県等指定	非指定	産地数計
織物	11	5	3	19	20	6	3	29	21	6	3	30
染色品	6	2	6	14	13	3	6	22	15	4	6	25
繊維製品	1	3	3	7	2	3	3	8	2	3	3	8
陶磁器	11	4	2	17	20	4	2	26	24	4	2	30
漆器	7	1	3	11	14	1	3	18	16	2	4	22
木工品	8	2	4	14	11	2	4	17	13	4	5	22
竹工品	3	1	1	5	4	1	1	6	4	1	1	6
金工品	6	1	2	9	16	1	2	19	17	1	3	21
仏壇・仏具	2	2	0	4	2	2	0	4	2	2	0	4
和紙	1	0	1	2	1	0	1	2	1	0	2	3
文具	3	0	0	3	4	0	0	4	4	0	0	4
石工品	2	0	0	2	3	0	0	3	3	0	0	3
人形・こけし	3	1	0	4	4	1	0	5	6	1	0	7
諸工芸	8	5	15	28	12	6	15	33	13	6	21	40
材料・用具	1	0	0	1	2	0	0	2	2	0	0	2
コラボ	0	1	1	2	3	1	1	5	5	1	2	8
合計	73	28	41	142	131	31	41	203	148	35	52	235

応募者内訳

	男性	女性	企業	合計
指定	75	21	35	131
県等指定	4	12	15	31
非指定	11	21	9	41
合計	90	54	59	203

応募のきっかけ



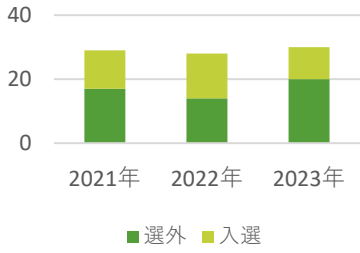
指定 = 経済産業大臣指定伝統的工芸品

県等指定 = 都道府県等地方自治体の指定を受けている工芸品

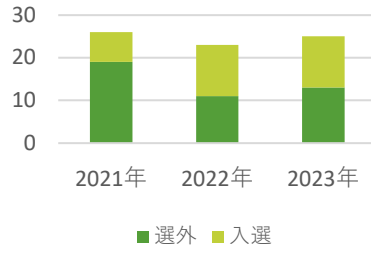
非指定 = 経済産業大臣および都道府県等の指定を受けていない工芸品

工芸品別 過去3年間の応募数推移

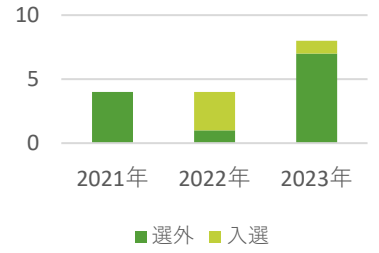
織物



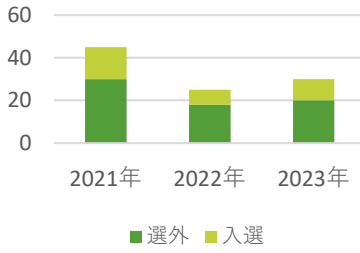
染色品



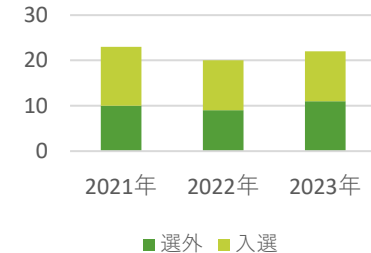
繊維製品



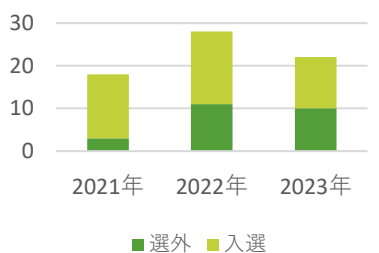
陶磁器



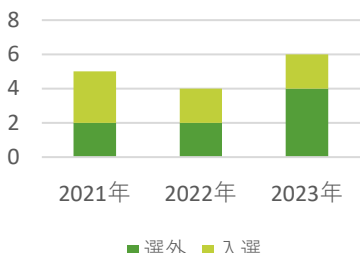
漆器



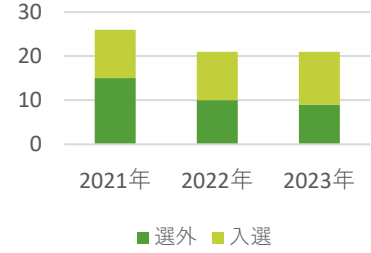
木工品



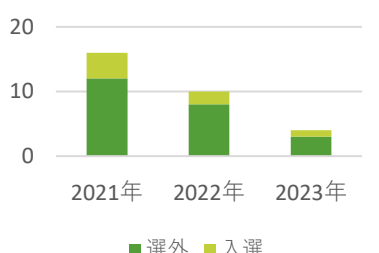
竹工品



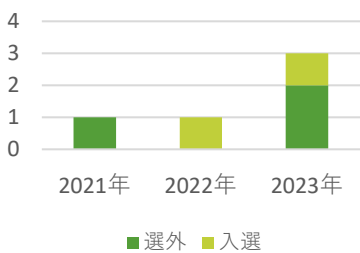
金工品



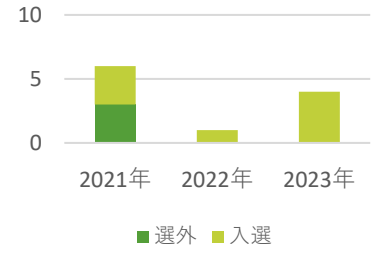
仏壇・仏具



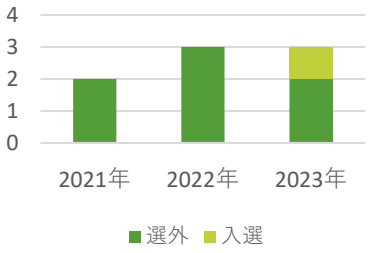
和紙



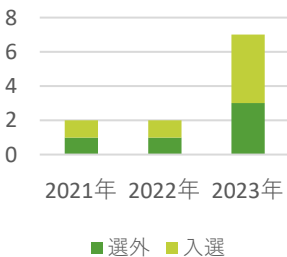
文具



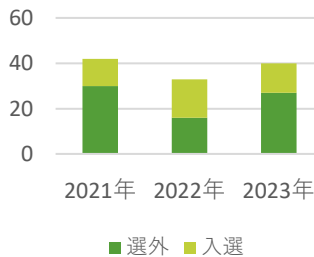
石工品・貴石細工



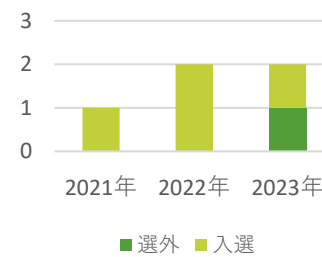
人形・こけし



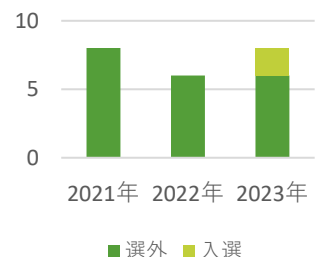
諸工芸



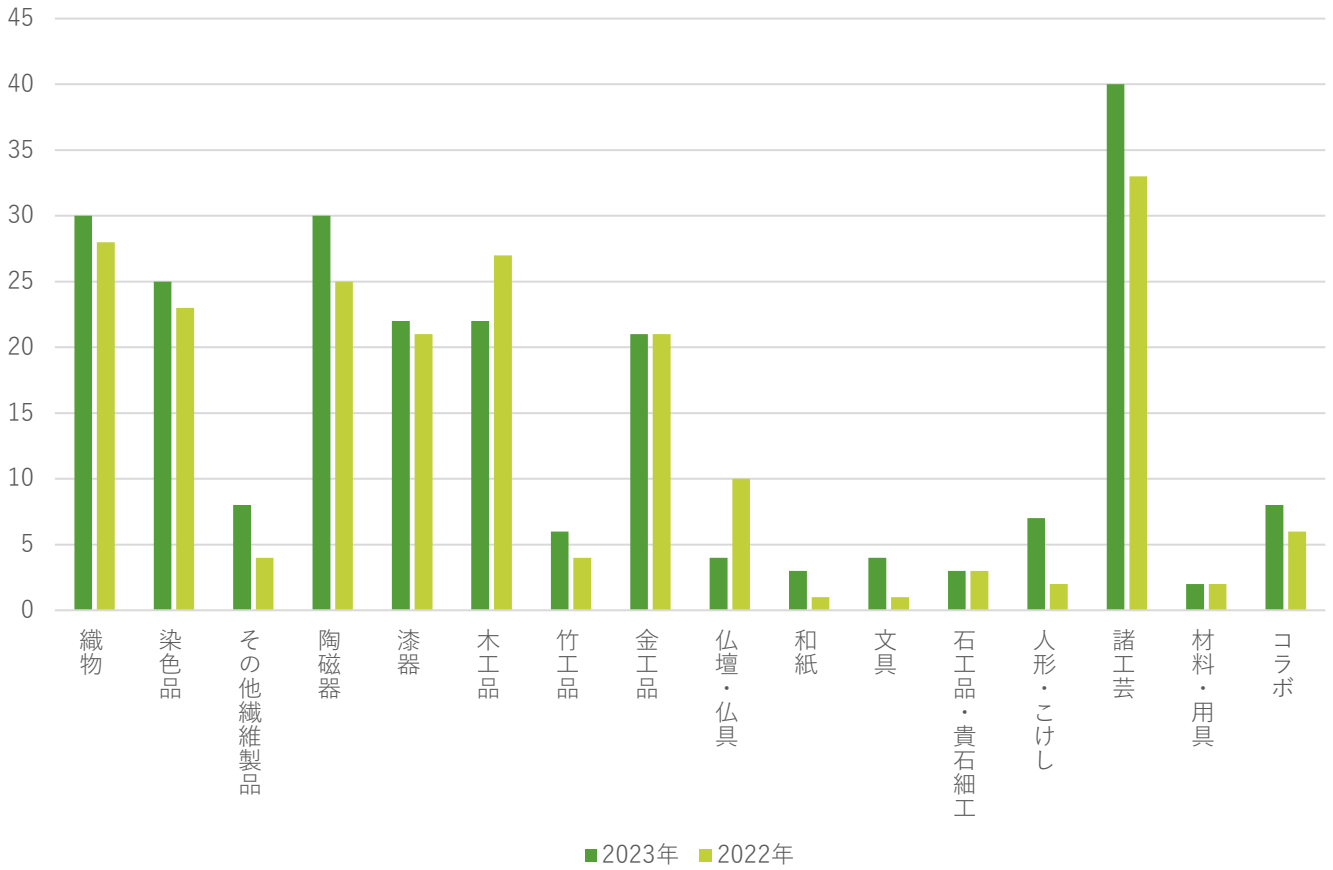
材料・用具



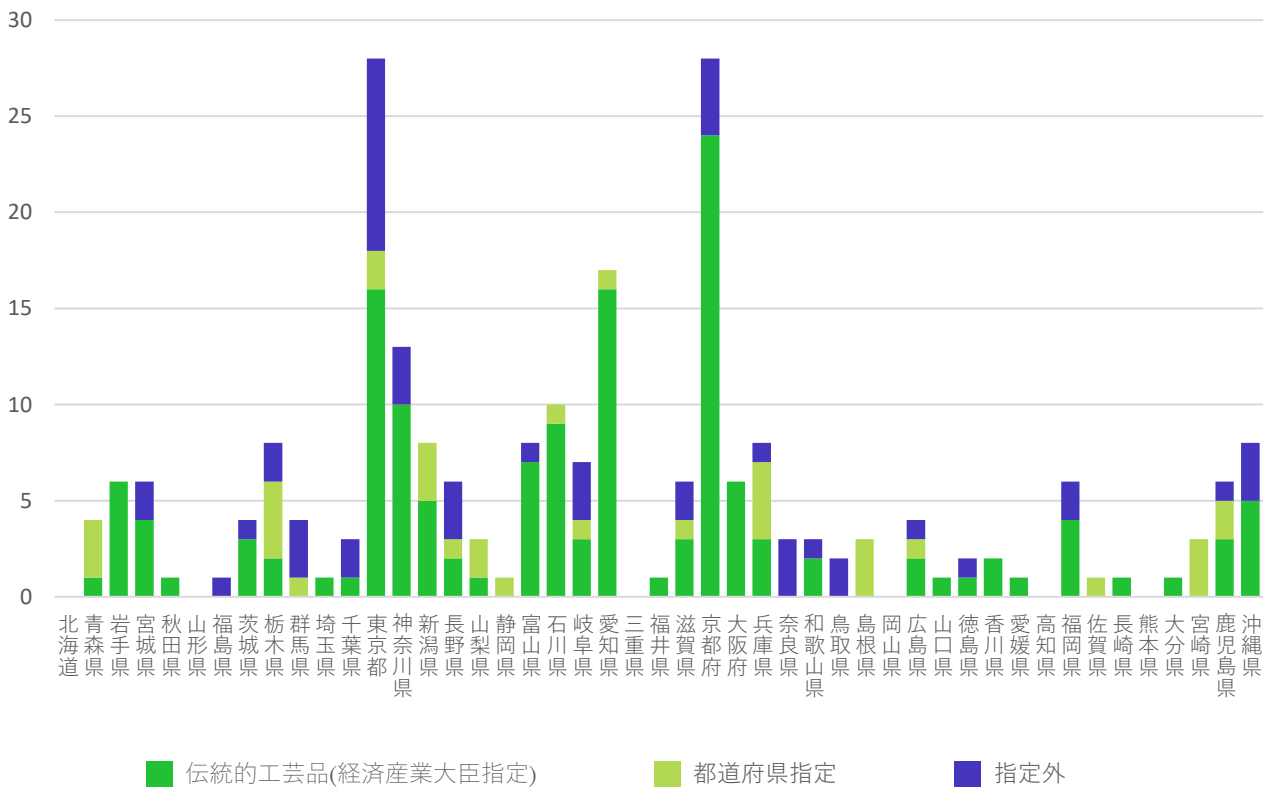
コラボ



業種別の応募点数（前年度比較）



都道府県別応募点数





一般財団法人 伝統的工芸品産業振興協会

〒107-0052 東京都港区赤坂8-1-22

TEL 03-5785-1001 FAX 03-5785-1002

kouboten@kougei.or.jp <https://kyokai.kougeihin.jp/>